名古屋市社会福祉協議会　介護職員初任者研修シラバス

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 科目名 | 項目名 | 時間 | 目標・講義内容 |
| １、職務の理解 |  | ６ | 研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人に生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、そのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。１、多様なサービスの理解〇介護保険サービス（居宅、施設）〇介護保険外サービス２、介護職の仕事内容や働く現場の理解〇居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容〇居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的イメージ〇ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・多職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 |
| ２、介護における尊厳の保持・自立支援 | ①人権と尊厳を支える介護 | ４ | 〇介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。１、人権と尊厳を支える介護（１）人権と尊厳の保持〇個人として尊重　〇アドボカシー　〇エンパワメントの視点　〇「役割」の実感　〇尊厳のある暮らし　〇利用者のプライバシーの保護（２）ＩＣＦ〇介護分野におけるＩＣＦ（３）ＱＯＬ〇ＱＯＬの考え方　〇生活の質（４）ノーマライゼーション〇ノーマライゼーションの考え方（５）虐待防止・身体拘束禁止〇身体拘束禁止　〇高齢者虐待防止法　〇高齢者の養護者支援（６）個人の権利を守る制度の概要　〇個人情報保護法　〇成年後見制度　〇日常生活自立支援事業２、自立に向けた介護（１）自立支援〇自立・自律支援　〇残存能力の活用　〇動機と欲求　〇意欲を高める支援　〇個別性／個別ケア　〇重度化防止（２）介護予防の考え方〇介護予防の考え方 |
| ②自立に向けた介護 | ５ |
| ３、介護の基本 | ①介護職の役割、専門性と多職種との連携 | １ | ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援をとらえる１、介護職の役割、専門性と多職種との連携（１）介護環境の特徴と理解〇訪問介護と施設介護サービス違い　〇地域包括ケアの方向性（２）介護の専門性〇重度化防止・遅延化の視点　〇利用者主体の支援姿勢　〇自立した生活を支えるための援助　〇根拠ある介護　〇チームケアの重要性　〇事業所内のチーム　〇多職種から成るチーム（３）介護にかかわる職種〇異なる専門性を持つ多職種の理解　〇介護支援専門員　〇サービス提供責任者　〇看護師等とチームとなり利用者を支える意味　〇互いの専門能力を活用した効果的なサービスの提供　〇チームケアにおける役割分担２、介護職の職業倫理職業倫理〇専門職の倫理と意義　〇介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）　〇介護職としての社会的責任　〇プライバシーの保護・尊重３、介護における安全の確保とリスクマネジメント（１）介護における安全の確保〇事故に結びつく要因を探り対応していく技術　〇リスクとハザード（２）事故予防、安全対策〇リスクマネジメント　〇分析の手法と視点　〇事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等）　〇情報の共有（３）感染対策〇感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断）　〇「感染」に対する正しい知識４、介護職の安全介護職の心身の健康管理〇介護職の健康管理が介護の質に影響　〇ストレスマネジメント　〇腰痛予防に関する知識　〇手洗い・うがいの励行　〇手洗いの基本　〇感染症対策 |
| ②介護職の職業倫理 | ２ |
| ③介護における安全の確保とリスクマネジメント | １ |
| ④介護職の安全 | ２ |
| ４、介護・福祉サービスの理解と医療との連携 | ①介護保険制度 | ３ | 介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できるようになる。１、介護保険制度（１）介護保険制度創設の背景及び目的、動向〇ケアマネジメント　〇予防重視型システムへの転換　〇地域包括支援センターの設置　〇地域包括ケアシステムの推進（２）仕組みの基礎的理解〇保険制度としての基本的仕組み　〇介護給付と種類　〇予防給付　〇要介護認定の手順（３）制度を支える財源、組織、団体の機能と役割〇財政負担　〇指定介護サービス事業者の指定２、医療との連携とリハビリテーション〇医行為と介護　〇訪問看護　〇施設における看護と介護の役割・連携　〇リハビリテーションの理念３、障害者自立支援制度およびその他の制度（１）障害者自立支援制度の理念〇障害の概念　〇ＩＣＦ（２）障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解〇介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで（３）個人の権利を守る制度の概要〇個人情報保護法　〇成年後見制度　〇日常生活自立支援事業 |
|  | ②医療との連携とリハビリテーション | ３ |
|  | ③障害福祉制度およびその他の制度 | ３ |
| ５、介護におけるコミュニケーション技術 | ①介護におけるコミュニケーション | ３ | １、介護におけるコミュニケーション（１）介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割〇相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮　〇傾聴　〇共感の応答（２）コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション〇言語的コミュニケーションの特徴　〇非言語的コミュニケーションの特徴（３）利用者・家族とのコミュニケーションの実際〇利用者の思いを把握する　〇意欲低下の要因を考える　〇利用者の感情に共感する　〇家族の心理的理解　〇家族へのいたわりと励まし　〇信頼関係の形成　〇自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする　〇アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い（４）利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際〇視力・聴力の障害に応じたコミュニケーション技術　〇失語症に応じたコミュニケーション技術　〇構音障害に応じたコミュニケーション技術　〇認知症に応じたコミュニケーション技術２、介護におけるチームのコミュニケーション（１）記録における情報の共有化〇介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録　〇介護に関する記録の種類　〇個別援助計画書　〇ヒヤリハット報告書　〇５Ｗ１Ｈ（２）報告〇報告の留意点　〇連絡の留意点　〇相談の留意点（３）コミュニケーションを促す環境〇会議　〇情報の共有の場　〇役割の認識の場　〇ケアカンファレンスの重要性 |
| ②介護におけるチームコミュニケーション | ３ |
| ６、老化の理解 | ①老化に伴うこころとからだの変化と日常 | ３ | 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する１、老化に伴うこころとからだの変化と日常（１）老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴〇防衛反応（反射）の変化　〇喪失体験（２）老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響　〇咀嚼機能の低下　〇筋・骨・関節の変化　〇体温維持機能の変化　〇精神的機能の変化と日常生活への影響２、高齢者と健康（１）高齢者の疾病と生活上の留意点〇骨折　〇筋力の低下と動き・姿勢の変化　〇関節痛（２）高齢者に多い、病気とその日常生活上の留意点〇循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）　〇循環器障害の危険因子と対策　〇老年期うつ病症状　〇誤嚥性肺炎　〇病状の小さな変化に気付く視点　〇高齢者は感染症にかかりやすい |
| ②高齢者と健康 | ３ |
| ７、認知症の理解 | ①認知症を取り巻く状況 | １ | 介護において認知症を理解することに必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解する。１、認知症を取り巻く状況認知症ケアの理念〇パーソンセンタードケア　〇認知症ケアの視点２、医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理〇認知症の定義　〇もの忘れとの違い　〇せん妄の症状　〇健康管理　〇治療　〇薬物療法　〇認知症に使用される薬３、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活（１）認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴〇認知症の中核症状　〇認知症の行動・心理症状　〇不適切なケア　〇生活環境で改善（２）認知症の利用者への対応〇本人の気持ちを推察する　〇プライドを傷つけない　〇相手の世界に合せる　〇失敗しないような状況をつくる　〇すべての援助行為がコミュニケーションであると考えること　〇身体を通したコミュニケーション　〇相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する　〇認知症の進行に合わせたケア４、家族への支援〇認知症の受容過程での援助　〇介護負担の軽減（レスパイトケア） |
| ②医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理 | ２ |
| ③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 | ２ |
| ④家族への支援 | １ |
| ８、障害の理解 | ①障害の基礎的理解 | １ | １、障害の基礎的理解（１）障害の概念とＩＣＦ〇ＩＣＦの分類と医学的分類　〇ＩＣＦの考え方（２）障害者福祉の基本理念〇ノーマライゼーションの概念２、障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識（１）身体障害〇視覚障害　〇聴覚、平衡障害　〇音声・言語・咀嚼障害　〇肢体不自由　〇内部障害（２）知的障害〇知的障害（３）精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む）〇統合失調症・気分（感情障害）・依存症などの精神疾患　〇高次脳機能障害　〇広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害（４）その他の心理の機能障害３、家族の心理、かかわり支援の理解家族への支援〇障害の理解・障害の受容支援　〇介護負担の軽減 |
| ②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 | １ |
| ③家族の心理、かかわり支援の理解 | １ |
| ９、こころとからだのしくみと生活支援技術 | ①介護の基本的な考え方 | ６ | ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を取得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。１、介護の基本的な考え方〇理論に基づく介護（ＩＣＦの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）〇法的根拠に基づく介護２、介護に関するこことのしくみの基礎的理解〇学習と記憶の基礎的知識　〇感情と意欲の基礎的知識　〇自己概念と生きがい　〇老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因　〇こころの持ち方が行動に与える影響　〇からだの状態がこころに与える影響３、介護に関するからだのしくみの基礎的理解〇人体の各部の名称と動きに関する基礎的知識　〇骨・関節・筋に関する基礎的知識、ボディメカニクスの活用　〇中枢神経系と体性神経に関する基礎知識　〇自律神経と内部器官に関する基礎知識　〇こころとからだを一体的に捉える　〇利用者の様子の普段との違いに気付く視点４、生活と家事家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援〇生活歴　〇自立支援　〇予防的な対応　〇主体性・能動性を引き出す　〇多様な生活習慣　〇価値観５、快適な居住環境整備と介護快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法〇家庭内に多い事故　〇バリアフリー　〇住宅改修　〇福祉用具貸与６、整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護整容に関する基礎知識、整容の支援技術〇身体状況に合わせた衣服の選択、着脱　〇身支度　〇整容行動　〇洗面の意義・効果７、移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援　〇利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法　〇利用者の自然な動きの活用　〇残存能力の活用・自立支援　〇重心・重力の働きの理解　〇ボディメカニクスの基本原理　〇移乗介助の具体的な方法　〇移動介助　〇褥瘡予防８、食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援〇食事をする意味　〇食事のケアに対する介護者の意識　〇低栄養の弊害　〇脱水の弊害　〇食事と姿勢　〇咀嚼・嚥下のメカニズム　〇空腹感　〇好み　〇食事の環境整備　〇食事に関した福祉用具の活用と介助方法　〇口腔ケアの定義　〇誤嚥性肺炎の予防　９、入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法〇羞恥心や遠慮への配慮　〇体調の確認　〇全身清拭　〇目・鼻腔・耳・爪の清潔方法　〇陰部洗浄　〇足浴・手浴・洗髪１０、排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法〇排泄とは　〇身体面（生理面）での意味　心理面での意味　〇社会的な意味　〇プライド・羞恥心　〇プライバシーの確保　〇おむつは最後の手段／おむつ使用の弊害　〇排泄障害が日常生活上に及ぼす影響　〇排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連　〇一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法　〇便秘の予防１１、睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護睡眠に関する基礎知識、さまざまな要因の理解と支援方法〇安眠のための介護の工夫　〇環境の整備　〇安楽な姿勢・褥瘡予防１２、死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うこころの理解、苦痛の死への支援〇終末期ケアとは　〇高齢者の死に至る過程　〇臨終が近づいたときの兆候と介護　〇介護従事者の基本的態度　〇多職種間の情報共有の必要性１３、介護課程の基礎的理解〇介護課程の目的・意義・展開　〇介護課程とチームアプローチ１４、総合生活支援技術演習（事例による展開）生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。〇事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題〇事例は高齢者（要支援２程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から２事例を選択して実施 |
| ②介護に関するこころのしくみの基礎的理解 | ４ |
| ③介護に関するからだのしくみの基礎的理解 | ３ |
| ④生活と家事 | ４ |
| ⑤快適な居住環境整備と介護 | ４ |
| ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | ７ |
| ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | ７ |
| ⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | ７ |
| ⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | ７ |
| ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | ７ |
|  | ⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | ４ |
| ⑫死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 | ４ |
| ⑬介護課程の基礎的理解 | ４ |
| ⑭総合生活支援技術演習 | ７ |
| １０、振り返り | ①振り返り | ８ | 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。１、振り返り〇研修を通じて学んだこと　〇今後継続して学ぶべきこと　〇根拠に基づく介護の要点２、就業への備えと研修修了後における継続的な研修〇継続的に学ぶべきこと　〇研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例を紹介 |